

市立五條文化博物館 平成20年度春季特別展

松倉重政入城400年記念 新町誕生

一町の歴史がここからはじまるー
「和州二見城図」ほか初公開資料多数
松倉重政と二見城の実像に迫る
6月1日まで開催中



市立五條文化博物館 [ごじょうばうむ]

観覧料 大人300円/高校・大学生200円/小中学生150円

※20名以上の団体は、それぞれ割引。小学生未満、土曜日(小中高校生)、65歳以上、障害者・介護者は無料。
無料シャトルバス 会期中の日曜日・祝日に、JR五條駅北口と博物館を結んで運行します。10時35分、11時35分、12時35分、13時35分、14時35分 JR五條駅北口発

《記念講演会》

- 日時 5月18日(日)
午後2時~午後3時30分
- テーマ 「松倉重政と二見城」
- 講師 千田嘉博先生(奈良大学准教授)
- 会場 市立五條文化博物館 1階研修室
- 定員 80人(事前に申し込みが必要です)

《学芸員による展示解説》

- 5月25日(日)、6月1日(日)午後2時~2時30分

■申込・問合せ先 市立五條文化博物館 ☎24・2011

新町と松倉豊後守重政

まつら ぶんごの かみげ まさ

「近世の新町」④ ー歴史的雄都の五條ー

文政4(1821)年、五條商人が紀州の橋本商人に対して一つの提案をしました。橋本から五條を通過して下市までの吉野川水運を利用した商品物資の輸送案です。次の図は、それに対して橋本商人が算定した商品物資の輸送経費などを示しています。

当時、橋本から和歌山方面への下り荷物が15,000駄あり、そのうち、実綿・板・大豆・小豆・煙草を内容とする5,000駄の荷が五條村地域から運ばれています。橋本からは塩(干鰯)・青物類5,000駄が五條へ輸送されています。一方、下市村で扱う荷物量

の見積もりでは11,000駄あり、そのうちの1,000駄が下市村から大和国在々へ、8,000駄が下市村~竹之内峠~堺・大坂へ、2,000駄が吉野川を利用したの筏上の荷で和歌山へ運ばれるとしています。しかし、五條から下市までの吉野川の難所を切り開いても【諸商品ルート】にあるように、Cでは8.4匁、Bでは7.4匁、Dでは8.42匁、Aでは7.2匁となっており、下市を経由すると計算上ではむしろ経費が高くなることになると橋本商人は言います。また、橋本から五條への紀ノ川を利用した荷物輸送を禁止していた橋本は、橋本での陸揚げの特権を失い、むしろ橋本は衰微し五條が繁栄すると思います。

こうして、この五條商人の提案は実現しませんでした。しかし、この問題から、近世における和歌山城下・橋本・五條・下市・御所・古市・堺・大坂・大和国内などへの、吉野川(紀ノ川)、伊勢街道、竹之内峠、大和川を経由する商品物資の流れの存在をリアルに思い描くことができます。近世が徐々に作り上げ到達した、物資の輸送経路です。ただ、紀ノ川水運における橋本の特権、五條・新町・須恵村の陸上における伝馬所の特権の壁を両者は乗り越えることができませんでした。にも拘わらず、こうした広域的な新たな物資輸送ルートの開拓が検討されること自体に、<近代>が足下まで近づいていることを予感させないでしょうか。

(新町と松倉豊後守重政400年記念事業実行委員会委員 藤井正英)

